

第 19 回鉱山跡措置技術委員会メモ（速報）

1. 日時 平成 30 年 3 月 22 日（水）13:00～17:15

2. 場所 日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 教育棟

3. 議題

- (1) 人形峠センターに係る概況
- (2) 鉱山跡措置の概況

4. 出席委員

中野委員長、占部委員長代理、飯田委員、緒方委員、片岡委員、小佐古委員、小松委員
佐々木委員

5. 審議概要

上記議題に沿って人形峠環境技術センター（以下センター）が説明を行い、委員から質問、提言を受けた。

(1) 鉱委 19-01（第 18 回鉱山跡措置技術委員会議事録）

異議なく承認された。

(2) 鉱委 19-02（人形峠環境技術センターに係る廃止措置状況）

人形峠環境技術センターで行われている廃止措置で発生するクリアランス物の問題については、鏡野町、機構にとって重要なことであるので、検討し対応するようにとの提言があった。

(3) 鉱委 19-03（平成 29 年度鉱山跡措置への取り組み）

特に意見なし。

(4) 鉱委 19-04（人形峠鉱山跡措置に関する基本計画策定からの取り組み）

シナリオ作成に当たっては、住民等に不安に思っていることを聴き取りして、反映すること。また、「地域社会の持続的安全・安心及び繁栄」と「一連の軌跡を残すことが事業者の役割」の意味を踏まえ、閉山措置に取り組むこととの提言があった。

鉱山の後措置に係る情報は、文字や画像、対話により地域社会に伝わるのが一般的である。そのため、地域社会に理解していただくには、体験的なプログラムができる機会を作ればよいのではないかと提言があった。

(5) 鉦委 19-05 (ラジウム(Ra)挙動調査及びラジウム(Ra)、ウラン(U)、溶解性鉄(S-Fe)、ヒ素(As)の移行解析)

本調査・研究は、「安全、安心、繁栄」に関して鍵を握っている問題なので、継続して取り組むようにとの提言があった。

(6) 鉦委 19-06 (廃砂たい積場の浸透流解析)

年度別の実測値と解析値を比較したとき、排水層の透水係数を幅で見るとしても降雨量の多い年に透水係数が高く、少ない年に透水係数が低くなっているのはなぜかという質問があり、今後も精査し、検討することとなった。

(7) 鉦委 19-07 (接触酸化ろ過及び生物処理調査研究)

人形峠の坑水はラジウムを含んでいるため、放流する前にラジウムを処理する人工的なシステムを造る必要がある。ケミレスは微生物利用なので継続して調査研究するようにとの提言があった。

(8) 委員長総括

この人形峠の鉦山跡措置の施設がレガシー※であるのかないのか。或いは、レガシーである必要があるのか、ないのかという問題を提起したい。

仮にレガシーにすると決めれば、これを将来の鏡野町の繁栄に繋げるという方向性を持って、どのような施設、システムを作ったら良いか考えていただきたい。

※レガシー：遺産

以 上